



一 小学校外国語・外国語活動の指導体制・評価を考える①

Compass No29以降、新教材 We Can! や新旧教材の接続等の情報をお伝えしてきましたが、今回は、指導体制および評価について考えてみたいと思います。現時点では、室蘭市における小学校外国語関係の体制が確定していませんので、「概要」の域を出ないわけですが、一度まとめておくことも必要かと思ひます。新学習指導要領と合わせて読んでいただけたらと思います。

指導体制について

指導体制については、新学習指導要領の中で「学級担任の教師又は外国語（活動）を担当する教師が指導計画を作成し、授業を実施するに当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語に堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと」と述べられています。

We Can! の内容をざっと見ても、現行の5・6年生外国語活動の内容を上回っていることは明らかで、実際の指導にあたっては英語に関する知識・理解、英語力もある程度は必要となっており、上記のような複数による指導体制が効果的であることは疑いようがないと思います。

現在室蘭市においては、3名のALTが「室蘭市ALT派遣計画」に基づいて中学校を含む全小学校に派遣されているほか、2名の英語講師が約半数の小学校において授業支援を行っている状況にあります。

今後は、新学習指導要領における外国語・外国語活動のねらいを学校が十分に理解した上で、評価までを見通して年間指導計画を作成し、ALTや英語講師のアドバイスも受けて、具体的な各時間の指導を考えていくことになります。

つまり、一時間の授業においては、質の高い言語活動を行うALTや英語講師と、一人一人の児童をよく知る学級担任との「協働」が期待されるわけで、学級担任の先生方にはこれまで以上に、「野球の守備におけるキャッチャー／サッカーにおける背番号10のMF／バスケットボールにおけるポイントガード」のような「司令塔」としての役割が、「助っ人」の力を「活用する力」が求められることになります。

(※上記の実現のためには、その他様々なサポートが考えられます。室蘭市教育研究所外国語グループにおいても、年間指導計画作成等の支援を検討しているところです。)

評価について

上記のような考え方は、これからの評価の在り方を見てもお分かりいただけると思います。小学校外国語に関しては基本的に、「ある状況・場面において、それまでに学んだ知識や技能などを活用しながら行う英語活動を評価する」ことになります。

そうした英語活動とは、例えば「自分の好きなもの（色・動物・スポーツなど）について発表する・発表の内容について質問したり答えたりする・自分の好きなものについて、例の中から表現を選んで書き写す」といったことになります。

そして、児童が実際にに行った言語活動について、観察を中心としながら振り返りシートによる自己評価等を組み合わせて「総合的に見取る」ことになります。中学校における評価とはやはり異なるわけです。

こうした評価は、毎日のように異なる学級の児童を指導するALTや英語講師に全てを委ねることには無理があるというものです。やはり学級一人一人の児童をよく知っている学級担任による「目」が欠かせません。

数年前になりますが、私はいわゆる専科指導という立場で200数十名の外国語活動の評価をしたことがあります。ですが、余りの困難さに翌年すぐに学級担任による評価に切り替えていただいた経験があります。中学校のような筆記による定期テストがない小学校においては、児童一人一人を見取る確かな「目」は、やはり担任の先生方にはかないません。

このように、評価の在り方を考えてみても、ALTや英語講師と学級担任との「協働」の指導体制は大変理想的と言えます。各校においては、今後一層の指導体制の充実をお考えいただきたいと思います。

今回の内容は、新学習指導要領ならびに右の書籍を参考にまとめたものです。

この本は、上智大学特別招聘教授／中央教育審議会委員の吉田研作先生が編集（協力：J-SHINE）したものです。



【小学校英語教科化への対応と実践プラン】